

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 4 回情報教育研究委員会大学入試小委員会 打合せ会議事記録

- I. 日 時：平成 24 年 11 月 28 日(水)午後 7 時～午後 9 時
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 参加者：筧委員、植原委員、久野アトババ伊、辰巳アトババ伊、家本アトババ伊、渡辺アトババ伊
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 現状の課題について

- ・ 大学入試センターが大学教育の質保証のための新法人に統合される計画などがあがっており、成果目標達成法人の大学連携型として入試センターが変わることが検討されていることから、到達度試験が有効ではないか、組織として牽引する必要があるか。
- ・ 入試センターの予定から、当初計画の声明書は取り止めることにして、実行的な対策や到達度試験への見解をまとめることにしてはどうか。
- ・ 到達度試験の水準指標の策定、模擬試験で松竹梅イメージの作成など 1 年間の間に大学、学会、高校を含めた取り組みで牽制するなどの働きかけが必要ではないか。大学の入試科目に導入の養成できないか。

2. 委員の意見

- ・ 到達度試験に情報は含まれないのではないかと、主要 5 科目が予想されている。
- ・ センター、大学は会場を貸してデータを得て運営しており、センターが全くなくなるかは疑問がある。
- ・ 主要 5 科目のペーパーテストで他は入らないのではないかと。高大接続部会でも内容まで発表ない。
- ・ 例えば、情報のビックアイデアとして 7 つ挙げてそれを教えるための項目と内容やシステムを構築してはどうか。21 世紀に必要とされるスキル（ATC21S 白書）が参考になるのではないかと。
- ・ 大学が目指すリテラシー教育では、グローバル社会で地球市民の一員として情報を発信し、異なる文化・価値観を受け止める中で連帯・協働し、新しい価値の創造に関与していくことが要請されている。様々な「知」を組み合わせ、自分のビジョンを持ち、発信する能力が必要とされている。
- ・ 都内の高校の情報教員 200 人の内、交流があるのは 1 割程度のデータがあり、活発な活動は少ないようだが、希望の把握などとしてはどうか。推進のための方法検討の基準にならないか、教科書会社巻き込めないか。高校に台がうの先生が教えに行くことで、生徒に教えるイメージと教員に教えるイメージはできないか、効果はないか。
- ・ 統計教育の参照基準を参考に、情報活用能力の参照基準をまとめるため、委員で案を作成してはの意見があった。

3. 今後の対策としての案

- (1) 高校教育課程の教科でそなえるべき情報活用能力の参照基準の策定
 - ① 私情協の中で小委員会の原案を情報教育研究委員会として決定
 - ② 情報処理学会、国立大学協会などとの調整
 - ③ 新学習指導要領を作成した高校側教員との見解調整
- (2) 情報活用能力の参照基準を踏まえた啓発運動
 - ① 国の関連機関「大学教育の質保証のための新法人」などに働きかけ
 - ② 高校長協会などに働きかけ
 - ③ 都道府県別の高等学校教育研究会などに働きかけ
- (3) 私立大学の入試科目に教科「情報」を踏まえた試験科目の導入を要請
 - ① 試験科目導入に対する各大学の反応を調査
 - ② 私立大学の学長・学部長宛に試験科目の導入要請を依頼
 - ③ 本協会の総会、教育改革 ICT 戦略大会、理事長・学長等会議で導入の重要性を紹介